

Winsockコントロールを利用した TCP/IP プログラム

ここでは、Microsoft Winsock Control (Winsockコントロール、ファイル名：mswinsck.ocx) を利用し、各種サーバーとのデータ転送プログラムを作成します。“Winsock”とは、第3章でも解説しますが、UNIXなどで広く使われているソケットインターフェースを利用して、TCP/IP通信を行うためのWindows APIです。Winsockコントロールは、VB、VBAなどで手軽に利用するためにWinsock APIをカプセル化したActiveXコントロールです。

Winsockコントロールは、Excel 2000 Developer、Visual Basic 6.0などに同梱されているため、プログラムを開発し配布するためにはそのライセンスが必要となります。もちろん、ライセンスがなくても配布されたWinsockコントロールのプログラムを利用することはできますが、ライセンスなしにはWinsockコントロールを配置してダイアログを作成することができません。

しかし、あらかじめVBE上でWinsockコントロールを配置しダイアログをデザインしたExcelのファイルがあれば、それを修正することはできるようです。

Winsockコントロールを利用したマクロを含むファイルを配布する場合は、mswinsck.ocxも配布する必要がありますから、Excelのファイルとmswinsck.ocxを入手し、ダイアログや機能の修正、拡張という方法で試してみるのもよいと思います。

2.1 Winsockコントロールの追加

Winsockコントロールは、標準ではツールボックスに登録されていません、そこで、次の手順でWinsockコントロールをツールボックスに追加し利用できるようにします。

Excelの[ツール]メニューの[マクロ] - [Visual Basic Editor]を選択しVBEを開きます(図2.1)。図2.2のように、ユーザーフォームの挿入ボタンで、ユーザーフォームを開きます。図2.3のようにユーザーフォームが開き、ツールボックスも表示されたところで[ツール]メニューの[その他のコントロール]を選択します(図2.4)。

図2.1 VBEを開く

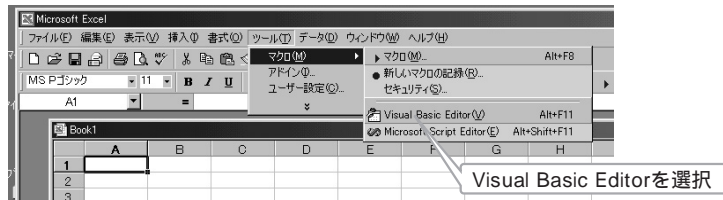


図2.2 ユーザーフォームを開く

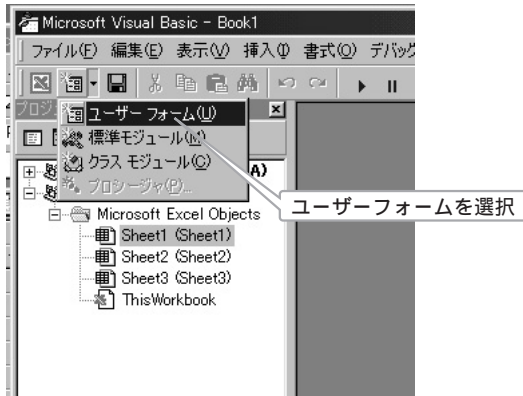
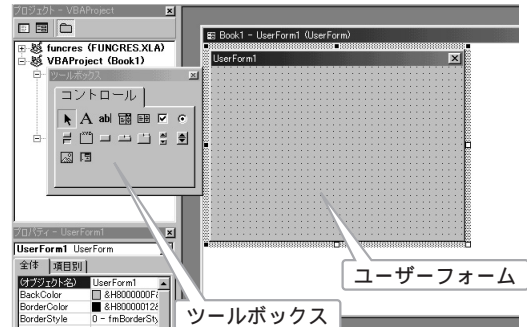


図2.3 ユーザーフォームが開いたところ



[その他のコントロール] を選択して表示されるコントロールの追加ダイアログ (図2.5) で、Microsoft Winsock Control をチェックし、OK ボタンをクリックします。

もし、Microsoft Winsock Control という項目がないときは、[ツール] メニューの [参照設定] (図2.6) で参照設定ダイアログを開き (図2.7)、参照設定ダイアログのリストで Microsoft Winsock Control をチェックし、OK ボタンをクリックします。これで、コントロールの追加ダイアログ (図2.5) のリストに登録されます。

図2.4 コントロールの追加ダイアログを開く



図2.5 Winsockコントロールを追加

